

### 3.3 米国におけるバッチカル式ファイリングシステム出現と普及の背景

米国の「狂騒・狂乱の20年代」と呼ばれる時代は、第1次世界大戦の終戦後の1920年から始まり1929年の株価大暴落までの間の10年間を言います。

第1次世界大戦では戦場とならず、人的損耗もなく、欧州に対する武器や食料等の主供給国となったことで大戦中に富の集積が大いに進み、また戦後の平時経済に戻ったのちにも、大きな痛手を被った欧州諸国に比し、米国経済は世界第1位の座を得るに至ります。

またこの時代には、重要度が高いいくつかの発明発見がなされ、過去に前例の無いほどの製造業では大量生産（マスプロダクション）の時代となり、中間所得層の増加は国内市場の成長を促し、消費者需要が拡大する中、相乗的に消費願望も加速してゆきました。

このような変化は、米国民の生活様式に大きな変化を促しました。

文化、芸術の面でも、ジャズミュージックが花開き、フラッパースタイルが大胆なファッションを通じて女性の行動様式に影響を与え、またアールデコが頂点を迎えます。

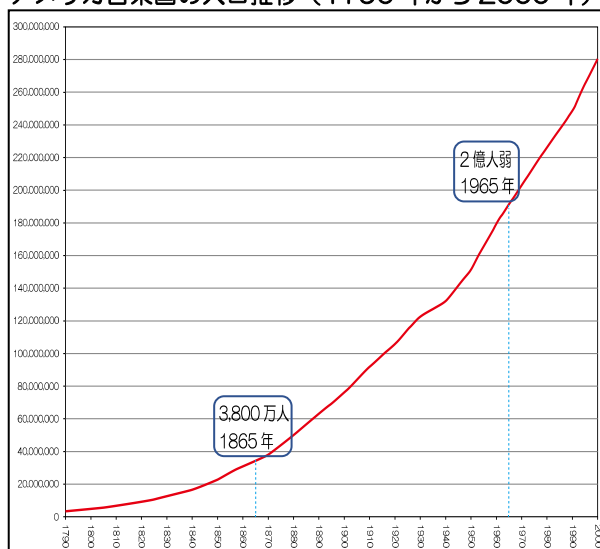
この20年代は、やがて1929年のウォール街での大暴落で終焉を迎え、米国は大不況時代に入って行きますが、この「狂騒・狂乱の20年代」は、それに先立つ南北戦争終戦後の1865年以降の米国の発展と米国を世界の第一人者（Princeps プリンケプス）とした第2次世界大戦までの米国の歴史を10年間に圧縮したような時代だったと言えるものでした。

※上記の記載に当たっては、フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』「狂騒の20年代」の記事を参考にしています。（<https://ja.wikipedia.org/wiki/狂騒の20年代> 2020.7.16）

以下の図表C3.3\_01の人口増加を示す数字は1865年から1965年にかけての100年間に、3800万人から2億人弱と5倍以上に膨張し、人口爆発の100年と言ってよいでしょう。

図表 C3.3\_01

アメリカ合衆国の人口推移（1790年から2000年）



File:Population of the United States, 1790-2000.png  
 出典：ウィキメディア・コモンズ(Wikimedia Commons)  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Population\\_of\\_the\\_United\\_States,\\_1790-2000.png?uselang=ja](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Population_of_the_United_States,_1790-2000.png?uselang=ja)  
 (2020.7.1) \* □ 内と | 部分は筆者による加筆

図表 C3.3\_02

アメリカ合衆国の人種構成（2000年/2010年）

人種	2010年		2000年		増減	
	人口	割合	人口	割合	人口	率
全米人口	308.7		281.4		27.0	9.7%
単一人種計	299.7	97.1%	274.6	97.6%	25.1	9.2%
白人	223.6	72.4%	211.5	75.1%	12.1	5.7%
黒人 アフリカ系	38.9	12.6%	34.7	12.3%	4.3	12.3%
アメリカ・インディアン アラスカ先住民	2.9	0.9%	2.5	0.9%	0.5	18.4%
アジア人	14.7	4.8%	10.2	3.6%	4.4	43.3%
太平洋先住民	0.5	0.2%	0.4	0.1%	0.1	35.4%
その他の人種	19.1	6.2%	15.4	5.5%	3.7	24.4%
複数人種	9.0	2.9%	6.8	2.4%	2.2	32.0%








2010年の国税調査 人種 単位：百万人  
 アメリカ合衆国の人種構成と使用言語  
 出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』  
 (2020/05/30 21:19UTC 版)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/アメリカ合衆国の人種構成と使用言語>

\* 赤枠は筆者による加筆

図表C3.3\_03

2017年の世界の国土面積 国際比較統計・ランキング

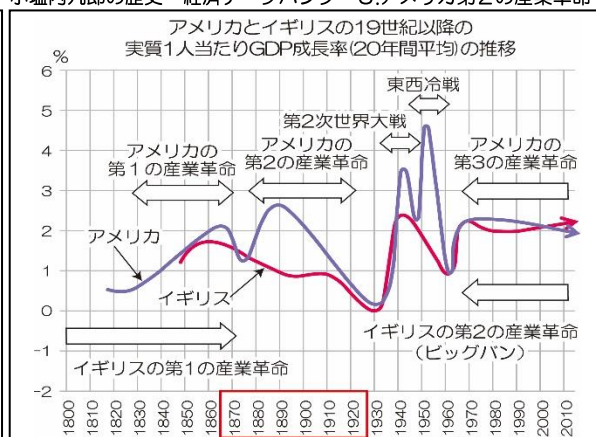
<2017年>		
順位	国名	単位：1000ha
1	 ロシア	1,709,825
2	 カナダ	987,975
3	 米国	983,151
4	 中国	956,291
5	 ブラジル	851,577
6	 オーストラリア	774,122
7	 インド	328,726

出典：GLOBAL NOTE/国際統計・国別統計専門サイト

<https://www.globalnote.jp/post-1704.html>

図表C3.3\_04

小塩丙九郎の歴史・経済データバンク・8.アメリカ第2の産業革命



出典：小塩丙九郎の歴史・経済データバンク (2020.7.1)

[http://www.koshiodatabank.com/8-1-1-american\\_2nd\\_revolution.html#item-1](http://www.koshiodatabank.com/8-1-1-american_2nd_revolution.html#item-1)

\* 赤枠は筆者による加筆

バーチカル式ファイリングシステムは、前述した南北戦争終結前後の19世紀半ば以降に案出され、20世紀初頭には既に米国内全体に普及することになります。

このシステムが産み出された背景となったのは、冒頭に述べた「狂騒・狂乱の20年代」が圧縮して象徴する、米国だけが持ち得た世界史上類を見ない繁栄と、その繁栄をもたらした以下のような社会・産業経済、地理面での基礎条件でした。

- ア. 世界3位の国土面積(図表C3.2\_03参照)と人口の爆発的で恒常的な増加による国内市場の拡大及び移民政策による多人種国家の成立
- イ. 広大な耕地面積を基礎とする大規模な機械化と集約化農業による農産品の生産高の増大・・内需を遥かに超えた生産量と対外輸出コストの低下
- ウ. 多くの新発明品を産み出し製品化に成功したことや、自動車製造等に代表されるオートメーション技術や標準化を基礎におくマスマプロダクションの実現と、マスマプロによるコスト効果をもたらす工業生産品の国際的競争力強化
- エ. 石油、金、鉄など自国の需要を上回る豊富な化石燃料と鉱物資源が国内に存在したこと
- オ. 上記イ～ウを実現可能とした豊富な資本投下環境
- カ. 旧世界の宗教、社会的身分制等から一線を画すことで得た合理的で先進的であろうとする国民性

### 3.3.1 人口爆発と欧州からの移民などによる白人を主とする多人種国家の成立

図表C3.2\_01に見るように、1865年の南北戦争終戦時の人口約3800万人が、100年後の1965年には、5倍以上の2億人弱という人口の爆発的増加(年平均で約162万人増)は、到達人口数と増加率、対象となる国土の巨大さなど、世界史上でも過去にどの国家でも経験したことのないほどの規模のものでした。(ただしその後、他の国でも人口爆発といえるような例が生じています)

また人種構成は、図表C3.2\_02のように、2000年時点で欧州系白人が75%強を占め、約12.3%をアフリカ等からの奴隷を祖とする黒人、3.6%のアジア系移民、そのほかに本土とハワイ出自の原住民族、中南米やカリブ海諸島、ハワイ以外のポリネシアからの流入移民などで10%弱となっています。

白人系は75%を占めますが使用言語で言えば単一とは言えず、米英語以外の多様な言語を母語に持っている、これに非白人系人種や民族を含めた、人種と言語の混淆、坩堝を成しているのです。

このことは国民相互の意思疎通には大きな障害が伴い、急成長する産業社会が必要とした労働力の質の問題として、解決を図らなければならない大きな課題となりました。

### 3.3.2 第2次産業革命期での工業、農業生産のマスプロダクションによる国際的競争力の獲得

図表 C3.2\_04 の赤枠内は南北戦争終結（1865年）後から、第1次世界大戦（1914年～1918年）の開戦前にかけての約50年間で、第2次産業革命期と呼ばれます。

第1次産業革命の象徴が“蒸気機関と石炭燃料”とするなら、第2次産業革命の象徴は“内燃機関と石油燃料”となるでしょうか。

しかし少なくとも米国における第2次産業革命は上のような単純な象徴語だけではとらえることはできないほど、第1次に比べてより大きな変革を産み出すもとなつた多様な側面を持っていました。

その内容を挙げると、石油燃料による自動車と飛行機による高速移動手段の確保、電力需要を賄う巨大発電設備と送電網等のインフラ整備、豊富な電力の供給による電話、電信等の高速通信装置と通信基盤の整備、国内の東西を縦貫する鉄道網という運輸基盤整備などによる総合的な効果の産物としての工業と農業における“マスプロダクション”の実現ということになります。

欧米各国やユダヤ人資本家等による国家を超え米国に集中する巨額の資本と、それ以前に主として1次産業によって蓄積された国内資本が併せて投下されることで、上述した諸条件が有機的に結びつき、工業設備の巨大化と工程の標準化、オートメーション生産の開始、要するに工業、農業分野でのマスプロダクションが稼働し始めます。

マスプロダクションによるコスト低減は、米国製工業商品や農産物の国際的な価格競争力を高め、世界貿易の主役の座を米国が勝ち取ることになります。

以上述べた米国における第2次産業革命の中で、個人当りGDP成長率は過去の覇者である英国を抜き去り、その差を引き離してゆくことになるのは、図表 C3.3\_04 のグラフでも明示されています。

第2次産業革命の終盤には、米国は世界の工場、世界の穀物倉庫の地位を得るとともに、資源と食料を自給可能で、巨大な国内市場をも併せ持つ、スーパー産業国家にまで成長します。

### 3.3.3 この時代背景が文書管理、ファイリングシステムに求めたものとは

上記 3.3.1～3.3.2 で述べた米国が置かれた状況は、欧州世界、アジア世界等米国以外では経験し得ないものでした。

米国における産業社会、具体的には経済を代表する大工場を持つ会社組織、グローバルな市場に対応する商品、製品の販売会社の組織、恒常的に維持されなければならない資本のための株式市場や証券やその他の金融商品の取扱い会社では、必然的に世界各国、国内の情報の収受と、収集情報の価値判断から組織の行動決定への反映、そして組織の意思の伝達・送信という、活性的な情報を処理するあらゆるプロセスを高速化することが緊急かつ最も重要な課題でした。

現代なら、この課題を解決するのはコンピュータシステムであり、コンピュータシステムが官民の組織の中で果たしている役割は極めて大きく、コンピュータによる情報処理無くして、世界の政治、経済等の全てが成り立たないと言われる状態にあります。

しかし、コンピュータが出現していないこの時代においては、あくまでも紙媒体の郵送や、せいぜい電信、電話回路が情報流通を支えているだけでしたが、この時代はこの時代なりのやり方での情報インフラの整備は急務だったのであり、このようなレベルでのシステム化の要求に応じようとしたのがバッチカル式ファイリングシステムでした。

コンピュータが無い時代に、コンピュータが果たす処理機能を、紙文書のファイリングシステムの工夫によって果たそうとし、また現実にその役割を果たしたことに、米国でのバッチカル式ファイリングシステムの画期性があります。

従って、バッチカル式ファイリングシステムは、アーカイブズ管理を基本の使命とし活性文書の情報処理の概念に鈍感だったレジストリ・システムなど同時代の他のシステムとは、明らかに次元が異なるシステムであったと言わざるを得ません。